

言語活動を通じた思考力・判断力・表現力の育成

—共通教科「家庭」における授業実践Ⅰ—

愛知県立名古屋南高等学校 廣瀬 真希子

1 はじめに

本校は名古屋市の南部に位置しており、現在、普通科 26 学級で構成されている。昭和 59 年に普通科高校として開校され、間もなく創立 30 周年を迎える。教育目標は、「知・徳・体の調和のとれた人間形成に努め、国家社会の発展に寄与し、国家社会に役立つ有為な日本人を育成する」である。校訓「伸ばす」の下、生徒一人一人が自ら学力を高め、徳を伸ばし、心身を鍛えることのできる心と態度が身に付くための教育が行われており、やる気をもって自ら伸びていく環境づくりがなされている。

県大会や東海大会・全国大会に出場して活躍している部活動もあるなど、学習面の充実はもとより、学校行事や生徒会活動、部活動なども盛んである。生徒は、落ち着いた雰囲気ですべての学校生活を過ごしている。

現在、本校では、教科「家庭」を科目「家庭基礎」2 単位、1 年生で履修している。生徒は、真面目に家庭科の学習に取り組み、与えられたことをきちんとこなす一方で、自分の考えをもち、自ら進んで課題に取り組むことや家庭での実践力に乏しいと感じることも多い。

2 研究の目的

新しい学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、これらを活用して課題を解決するために思考力・判断力・表現力を身に付けること、また、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動の充実が示されている。

本校生徒の現状を踏まえて、グループ活動を通して、主体的に学習に取り組み、知識を活用して、自他の意見を共有し、考えを深め、自分の意見を論述できる授業について研究・実践することを目的とした。

3 研究の内容

(1) 実態調査

本実践を進めるに当たり、生徒の消費行動に関わる実態と保育に関するアンケート調査を実施した。対象は、本校 1 年生である。アンケート調査結果は、別添資料 1 に示す。

環境保全に関心は高いが、「環境保全のために実行していることはない」と答えている生徒が 7 割近くいる。また、「子どもは好きである」と答えた生徒が 9 割近くいるが、「子どもの世話をしたことがない」「この 1 年間、子どもと遊んだことがない」と半数以上の回答がある。さらに、「人前で発表することは得意ではない」と 7 割を超える回答がある。こうしたアンケート結果を踏まえ、消費者として環境保全も意識しながら消費行動がとれ、環境保全に対する考えなどを発表することができるような授業と、子どもと触れ合う手だてとしての児童文化財を作り、それを発表し合う授業計画を立案し

た。

(2) 授業実践

ア 世界のゴミ問題への取組についての調べ学習

(ア) 実践事例について

環境に調和した生活の学習として、世界各国でゴミの量を削減するための取組について、グループで調べ学習を行い、クラス発表を行う。その後、環境負荷の少ない生活を目指して、自分の暮らし方について考えを深めさせる。

(イ) 学習活動の概要について

1 単元名

消費行動を考える

2 単元の学習目標

- (1) グローバル化、情報化などの社会変化や、それに伴う販売や流通の多様化、消費者と事業者の情報量の格差など、消費者問題発生の社会的背景について考える。
- (2) 生活の基盤としての家計管理の重要性や家庭経済と国民経済の関わりなどについて理解する。
- (3) 資源・環境に配慮した生活スタイルを見直し、環境に調和した生活を工夫できるようにする。

3 評価規準

<関心・意欲・態度> 自分が一消費者であることを考えながら、物・サービスの購入の在り方や消費者問題、消費と環境との関わりについて関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。

<知識・理解> 消費者の権利と責任などについて理解し、消費生活の課題について認識できている。

契約についての知識を身に付けている。

生活と環境との関係について理解している。

<技能> 消費行動について、様々な情報を収集し、自立した消費者として、責任をもって行動できるために必要な技術を身に付けている。

<思考・判断・表現> 消費行動と環境との関わりについて、生活と関連させながら課題を見付け、解決を目指して思考を深めている。

4 単元の工夫

- (1) 問題商法についての視聴覚教材を利用したり、問題商法のトラブル例などの聞き取り調査を行い、消費者問題について関心をもたせる。
- (2) 高校生活でかかる費用の算出をさせ、家計について考えさせる。
- (3) 世界のゴミ問題の取組を調べさせ、環境問題への意識を高めさせる。そして、環境負荷の少ない生活を目指して、自分の暮らし方について考えを深めさせる。

5 主な学習活動

(1) 題材の指導計画 (全7時間)

学習項目・(時)	学習活動・(時)	言語活動に関する指導上の留意点
消費行動を考える (5)	主体的な消費行動 (1) 消費者の権利と責任 (1) 資源・環境を考える (3)	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動において意思決定のプロセスについて話し合いをさせ、問題商法のトラブル例など聞き取り調査を行い、プリントに記録させる。 グループ活動で、世界のゴミ問題への取組についてインターネットを利用して調べ、画用紙などにまとめさせる。 まとめたことをグループごとに発表させる。 発表を聞いて、資源と環境との関わりについて課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めさせる。
経済的に自立する (2)	経済のしくみを知る (1) 計画的にお金を使う (1)	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活でかかる費用についてプリントに記録させ、グループで紹介させる。

(2) 本時の学習 (5/7時間)

ア 学習目標

- (ア) 環境情報を知る手掛かりとして、環境ラベルの位置付けがある。このラベルを導入として用いることで環境保全についての興味を高める。
- (イ) 環境について考える手だての一つとして、世界各国のゴミ問題への取組についての調べ学習を行い、そのまとめを発表する。
- (ウ) 消費生活が環境に影響を与えていることを知り、資源と環境との関わりについて理解し、環境に調和した生活を工夫できるようにする。

イ 本時の展開

- (ア) 資料プリント(別添資料2)を用いて、50年後に予測される世界のゴミの量の推移を確認する。
- (イ) ゴミの量を削減するための世界各国の取組について、インターネットを利用して調べた内容のまとめを基に、発表の準備をする。
- (ウ) 世界各国の環境に関するラベル、ゴミ問題に対する取組について、調べたことをクラスで発表し、環境問題への取組について理解を深める。
- (エ) 消費生活が環境に影響を与えていることを知り、消費者として環境負荷を少なくする消費行動の在り方を考える。

6 言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成するための手だて

【思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類】

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し伝達する。
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

(1) 情報の集約（分類②より）

- ・世界各国のゴミ問題への取組についてグループごとに、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用し、情報を正しく集めさせる。（ワークシート 別添資料3 - ①・②）
- ・集めた情報を分かりやすくまとめる工夫として、画用紙に文章と絵や図を用いて表現させる。

(2) 発表の工夫（分類④より）

- ・集めた情報を共有できるようにクラスで発表させる。
- ・発表用の記録用紙（別添資料4 - ①・②）に記入させる。

(3) 発表後のまとめ（分類⑥より）

- ・世界各国のゴミ問題への取組を知り、環境に調和したライフスタイルについて考えを深めることができたか記述させる。



コンピュータを使った情報収集



情報のまとめ



発表の様子

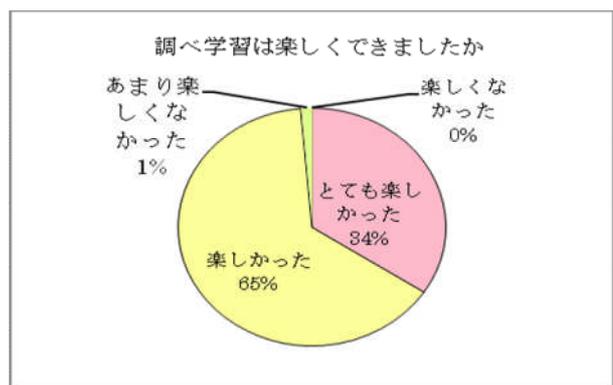
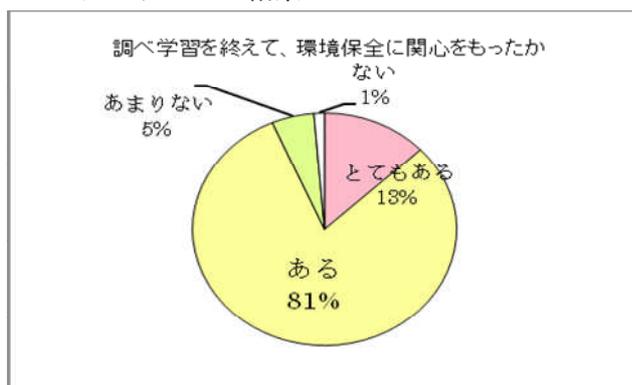
7 評価の観点（思考力・判断力・表現力）

- (1) 世界各国のゴミ問題への取組について、正しい情報を収集し、その情報を言葉や絵を用いて、分かりやすくまとめることができたか。
- (2) 世界各国のゴミ問題への取組について収集した情報を、クラスで発表し、情報を共有することができたか。
- (3) 世界各国のゴミ問題への取組を知り、環境に調和したライフスタイルについて、自分の考えをもつことができたか。

(ウ) 授業実践を終えて

① 生徒を対象にアンケートを実施・感想の記入

〈アンケートの結果〉



・調べ学習を楽しく進めた生徒がほとんどであった。また、環境保全に関心をもった生徒は、9割に達し、授業前よりも関心を高めることができた。

〈クラス発表を終えての生徒の感想〉

A 環境について

- ・発表を通して、他の国がどのようにゴミ問題に取り組んでいるか分かったので、これから自分がゴミ問題について何をすべきなのか考えることができた。
- ・日本は世界の中でも環境問題の対策ができていると感じた。
- ・各国にいろいろな環境マークがあることが分かった。ゴミ問題は世界的に大きな問題になっているが、環境問題への取組は国によって全く違うことが分かった。

B 話し合いについて

- ・みんな同じ環境問題について調べているのに、着眼点が違って面白いなと思った。
- ・もともと発表が苦手なので、かなり緊張したが、大きな声で発表できたと思う。
- ・発表内容をしっかりとまとめていても、発表の仕方がうまくできないとみんなに伝わらないと思った。
- ・分かりやすい班は、発表の仕方も声の大きさも良かったと思う。環境問題について、世界を通じてみんな考えていかなければならないと思った。
- ・グループで協力して学習をし、発表することは、一人で学習するよりいろいろなアイデアが浮かんできてよかった。

② 生徒の変容

消費生活が環境に影響を与えていることを認識させるために、ゴミ問題を取り上げ、環境問題に関心を高めさせた。インターネットを利用して調べ学習をすることにより、視覚的・体験的に学ぶことができ、環境問題について、より深刻にとらえたようである。生徒の学習プリントの記録やまとめ、発表から、日本だけでなく世界に目を向けたことにより、ゴミ問題に関して意識が高く環境先進国といわれている国もあれば、まだまだ意識が低くゴミを細かく分別せず捨てている国があるなど、いろいろと国による状況の違いを学んだ様子もうかがえた。

個別学習ではなく、グループ学習をすることにより、ゴミ問題への取組に気づき、感想をお互いに共有することができ、楽しく学習を進めることができた。

また、生徒たちは、自分たちの調べた学習内容を相手に分かりやすく、よりインパクトを与えるようにいろいろと工夫を凝らしてまとめた。しかし、発表を得意としない生徒も多く、発表の工夫を工夫すれば良かったという感想が多くあった。

思考力・判断力・表現力に関する評価の観点を示したが、世界各国のゴミ問題への取組について、正しい情報を収集し、その情報を言葉や絵を用いて、分かりやすくまとめることができ、世界各国のゴミ問題への取組について収集した情報を、クラスで発表し、情報を共有することができた。世界各国のゴミ問題への取組を知り、環境に調和したライフスタイルについて、自分の考えをもつことができた。学年全体を通して本実践は有意義であったと言える。

イ 共同製作による絵本作り

(ア) 実践事例について

児童文化財の一つとして絵本をグループごとで共同製作し、クラスで作品の読み聞かせをする。その後、子どもにとっての絵本の意義について考えを深めさせる。

(イ) 学習活動の概要について

1 単元名

子どもと関わる

2 単元の学習目標

- (1) 子どもの発育・発達について理解する。
- (2) 子どもの生活のリズムや食生活・衣生活、遊びなどの特徴を知る。
- (3) 親の役割や親になる意義を知り、現在の親子関係についての問題点を考える。
- (4) 集団保育の意義を理解する。

3 評価規準

- <関心・意欲・態度> 子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら興味・関心をもつことができる。
- <知識・理解> 生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。
子どもの発達段階において、子どもを取り巻く人との関わり、地域環境や社会環境の重要性を理解する。
- <技能> 子どもの発達に合った絵本作りができる。
- <思考・判断・表現> 子どもを生み育てることの意義、乳幼児期の重要性と子どもの人間形成について、親としての態度などを考えている。

4 単元の工夫について

- (1) 自分の小さい頃の様子について家族から聞き取り、また、ビデオ鑑賞により、子どもの成長過程を理解させる。
- (2) 子どもの生活を理解させ、児童文化財として絵本をグループで共同製作させる。
- (3) 新聞記事などを用い、現在の子育ての難しさや少子化政策などを考えさせる。

5 主な学習活動

(1) 題材の指導計画（全8時間）

学習項目・(時)	学習活動・(時)	言語活動に関する指導上の留意点
子どもと関わる (8)	子どもを知る (1)	・幼い頃に関わった人たちにインタビューをし、小さい頃の様子をプリントにまとめさせる。
	発達の素晴らしさ (1)	・ビデオ鑑賞をさせ、子どもの成長過程をまとめさせる。
	子どもの生活 (4)	・グループで話し合いを通して、ストーリーを考えさせ、絵本を共同製作させる。
	親になることを考えよう (1) すこやかに育つ環境 (1)	・新聞記事を用いて、子育ての難しさや集団保育について考えさせ、気付いたことをプリントにまとめさせる。

(2) 「絵本づくり」の学習(4時間)

ア 学習目標

- (ア) 子どもの1日の生活の様子を発達段階ごとに理解する。
- (イ) 子どもの生活における「遊び」の重要性を理解する。

(ウ) 児童文化財の一つとして絵本をグループごとで共同製作する。その際に、絵本を通して基本的・社会的な生活習慣が学べるようなストーリーとなるように話し合いをする。

イ 本時の展開

(ア) 発達段階に応じた子どもの1日の生活、遊びの意義、遊び方・遊ぶものの分類を考えさせる。

(イ) 児童文化財の一つとして、絵本をグループごとで共同製作することを知らせる。絵本を通して基本的・社会的な生活習慣が学べるように、グループごとで話し合いをし、記録表に絵本のストーリーなどを記入させる。

(ウ) 絵本の製作に取り組む。

(エ) クラスで読み聞かせを行う。

6 言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成するための手だて

【思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類】

- ① 体験から感じ取ったことを表現する。
- ② 事実を正確に理解し伝達する。
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④ 情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

(1) 生活体験を基に文章や絵に表現する（分類①より）

絵本を通して幼児に、あいさつの大切さ、歯磨きをすることの大切さ、思いやりの大事さを伝えることを目的に、生徒の生活体験を基に、子どもの発達段階に応じて、絵と言葉で表現する。

(2) グループでの話し合い活動をする（分類⑤より）

(1) で体験したことを表現するために、絵本作りの記録表を作成し、ストーリーの展開を考えるためお互いの意見を出し合い、ストーリーを考える。1グループを3～4人程度にして、各自の意見を発表し合う。



グループでの話し合いの様子



クラス発表（読み聞かせ）



クラス発表（作品について）

7 評価の観点（思考力・判断力・表現力）

(1) 自分たちの体験を通して、基本的・社会的な生活習慣について学べる内容を絵と言葉で表現し、絵本を完成することができたか。

(2) 発達段階に応じた絵本の内容となるように、しっかりと話し合いをし、ストーリーの展開を考えたか。

(ウ) 授業実践を終えて

① 感想の記入

クラス発表を終えて生徒に感想を記入させた。(ワークシート 別添資料5)

〈生徒の感想〉

- ・子どもの目線で本を作ることは、とても難しいことだなと思った。話し方によっても興味が湧いてくると思った。
- ・読み方だけで雰囲気は全く違い、感情がこもった読み方をした人の絵本は、より面白く感じられた。
- ・あいさつや歯磨きなど基本的な生活習慣をテーマとした本もよいが、小さい子が楽しめるのは、物語ではないかと思った。
- ・絵本はストーリーも大事だが、読み方も大切だと発表を通じて思った。ゆっくり読むことが大切だと気付いた。
- ・他のグループの発表を聞いて、絵本の内容やクオリティーも大事だが、読み聞かせる声の大きさや声も重要だと思う。

② 生徒の変容

クラス発表する前は、みんなに読み聞かせることを恥ずかしがるなど消極的な生徒が多かったのだが、発表後の感想を聞くと、他の班の作品の工夫点やよいところが分かったり、読み聞かせ方を工夫すればよかったと気付くなど、発表の時間を有意義に感じた生徒が多くいた。

子どもの発達には年齢や個人差などあり、子どもの発達に応じた内容の絵本作りをするには、とても難しいことであったが、グループで意見を出し合い、試行錯誤して作品作りをしたことは、よい経験となったようである。

生徒たちのそれぞれの体験から、基本的・社会的な生活習慣について学べる内容を絵と言葉で表現してあり、絵本を完成することができた。また、発達段階に応じた絵本の内容となるように、話し合いを行い、ストーリーの展開を考えることもおおむねできたと言える。

③ 発展学習 読みきかせ実習

子どもの目線に合わせた内容の絵本に仕上がったかを知るために、身近に子どもがいる生徒数名に、絵本の読み聞かせをさせた。下記のような意見があった。

〈生徒の感想〉

- ・3才10か月の子どもに読んだところ、飛び出す絵本のような立体的な場面や、自分で動かして体験できるような場面があると、とても興味をもつことが分かった。自分で何でもしたいと思う時期なので、絵本の中に子どもが実際に触って体験できることを取り入れると良いと思った。
- ・6才の子どもに読んだところ、きれいな絵や大きな字の絵本に興味をもっていた。高校生には簡単な内容でも子どもには理解できないことがたくさんあることが分かった。
- ・6才の子どもに読んだところ、きれいな絵やビニールテープなどを使うなどの工夫がしてある絵本やきれいな字で書いてあるものに興味をもっていた。

本校では、保育園等での保育実習を実施していない。そのため、今回は身近に子どもがいる生徒のみ、仕上がった作品を読み聞かせする体験を行い、その時の子どもの様子をクラスで発表させた。3才児と6才児の発達の違い、また、子どもと高校生の目線の違いを感じるなど、よい経験となった。

(3) 授業実践のまとめ

ア 世界のゴミ問題への取組についての調べ学習

インターネットを利用して調べ学習をすることにより、視覚的・疑似体験的に学ぶことができた。また、グループ学習とすることで、環境問題についての意見を交換することができ、より学習が深まった。

発表を苦手とする生徒は多くいたものの、「お互いの発表を聞くことにより、もっと大きい声で発表すればよかった」「発表を通して、いろいろな国のことが分かり環境についての考えを深めるよい学習経験となったと感じる」「コンピュータを使って発表をしたかった」という生徒の声があった。コンピュータを使用して、視覚的により分かりやすい発表を行うために、情報の授業と関連させ、コンピュータを使った発表を今後の課題としたい。

イ 共同製作による絵本作り

乳幼児期が人間の発達段階において重要な時期であり、子どもは遊びを通して、人と関わりながら育つことを認識させるために、児童文化財の一つである絵本づくりを授業で取り上げた。3～4人程度で共同製作させることにより、ストーリーの展開や、創意工夫についてもお互いの意見を交換しながら作品作りを進めることができ、個人製作よりも楽しく、かつ、子どもの発達に応じた作品に仕上げることができた。

4 授業実践の成果と今後の課題

思考力・判断力・表現力を育成するために二つの授業実践を行った。共同で調べ学習や製作をすることで、生徒同士で意見を交換することができ、考えをより深めた。また、体験的な学習に興味・関心をもつ生徒も多く、有意義な学習になった。今回の実践を通して、発表を得意としない生徒が多くいることが分かった。しかし、発表を終えての感想を聞くと、友だちの意見を聞くと参考になるという声が多かった。自分の意見を発表する機会を授業の中で極力つくり、言語活動を充実させることは必要だと思う。

体験的な学習に言語活動を取り入れることは、指導目標を達成させるために効果がある。しかし、「家庭基礎」は2単位で行っているため、指導内容を精選しないと指導時間が不足してしまう。そのため、家庭科の学習指導要領に従い、基礎・基本の知識・技能を習得した上で、言語活動を充実させた授業の内容を今後も研究し、どの単元で、どのように取り入れるか検討したい。また、それらをバランスよく位置付けた年間の指導計画を作成したい。

〈参考・引用資料〉

『中央教育審議会答申』 2008年1月発表

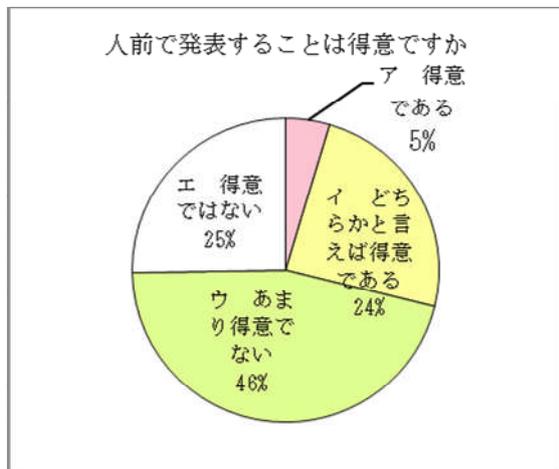
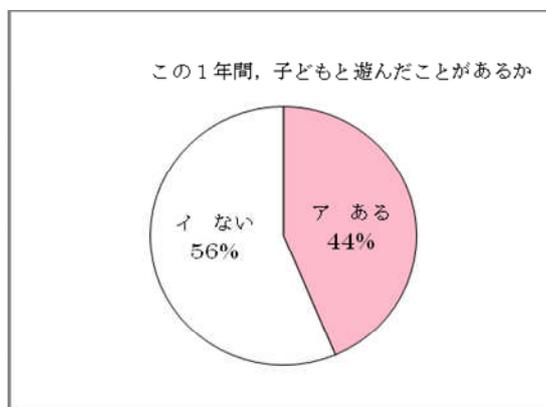
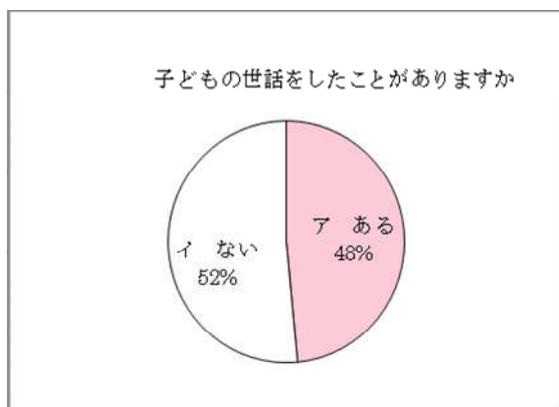
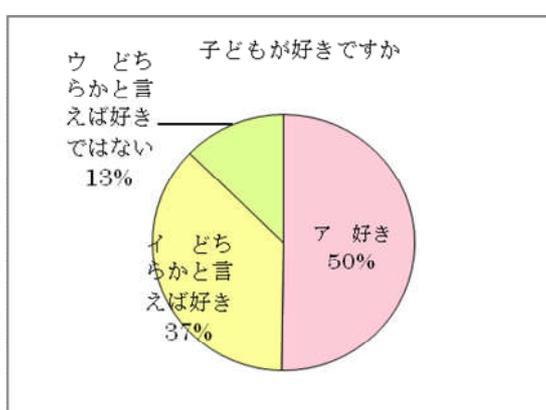
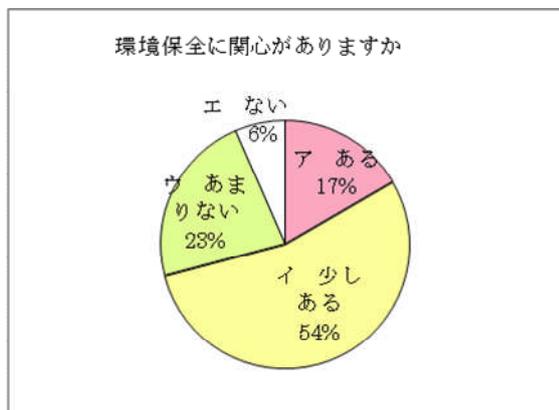
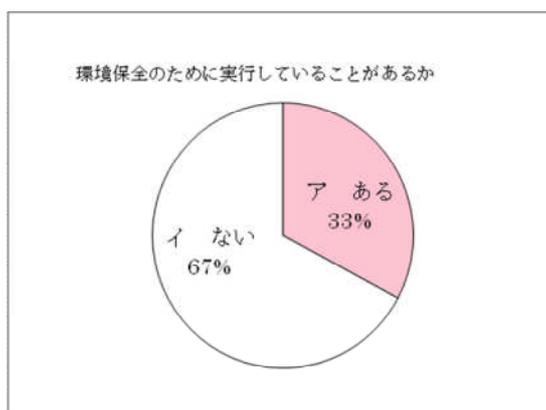
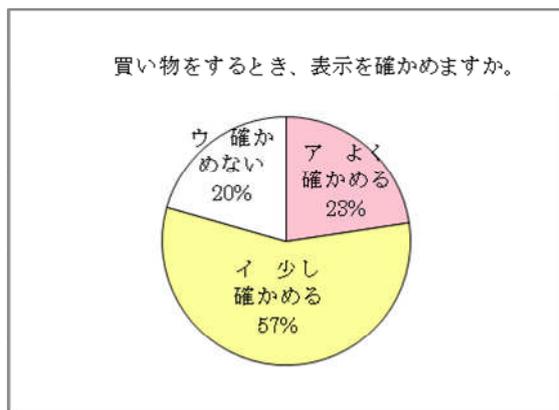
『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 2010年5月

『環境の世界地図』 藤田千枝編/新美景子著 大月書店 2005年2月

『ごみ問題を子どもに教えるためのガイド』 ごみ指導ガイドプロジェクトチーム編 星の環会
2009年3月

『教科学習におけるエネルギー環境教育の授業づくり【小学校編】』 佐島群巳 高山博之 山下宏文編 国土社 2009年10月

消費行動にかかわる実態および保育に関する調査結果（抜粋）



ごみとリサイクル

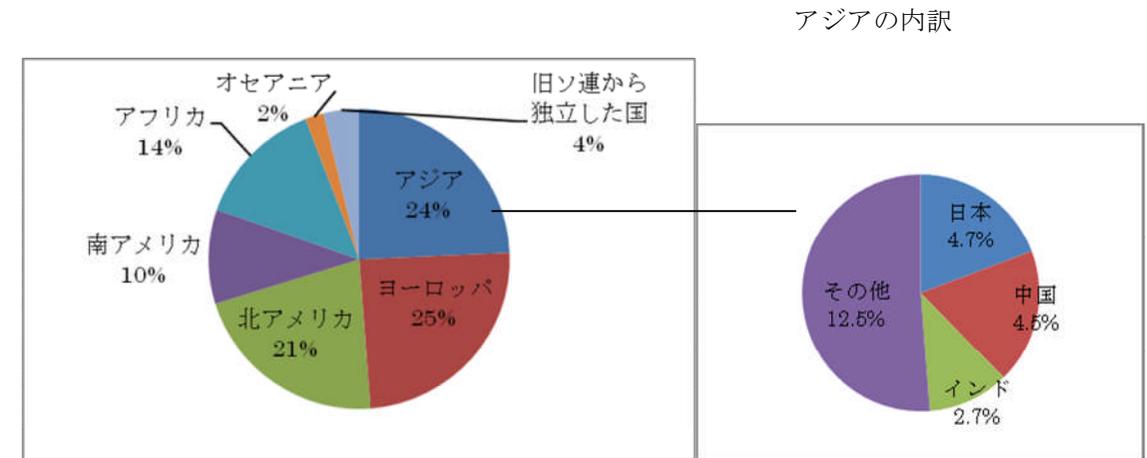
2000年の世界人口は、約60億人。2050年には約90億人になると仮定して、現在のごみの量から将来の量を予測すると、50年後には2倍近くに増えるという結果になった。世界では、ごみ処理の方法は埋め立てが一般的だが、これだけの量を水や土を汚さずに処分する余地が、地球にあるだろうか。日本では、燃えるごみは焼いてから埋め立てているが、ダイオキシンが発生するなどの問題がある。

大切なことは、リデュース（減量）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源）、リフューズ（いらぬものを断る）の頭文字をとった4Rを徹底し、ごみをできるだけ出さないようなライフスタイルにしていくことだ。

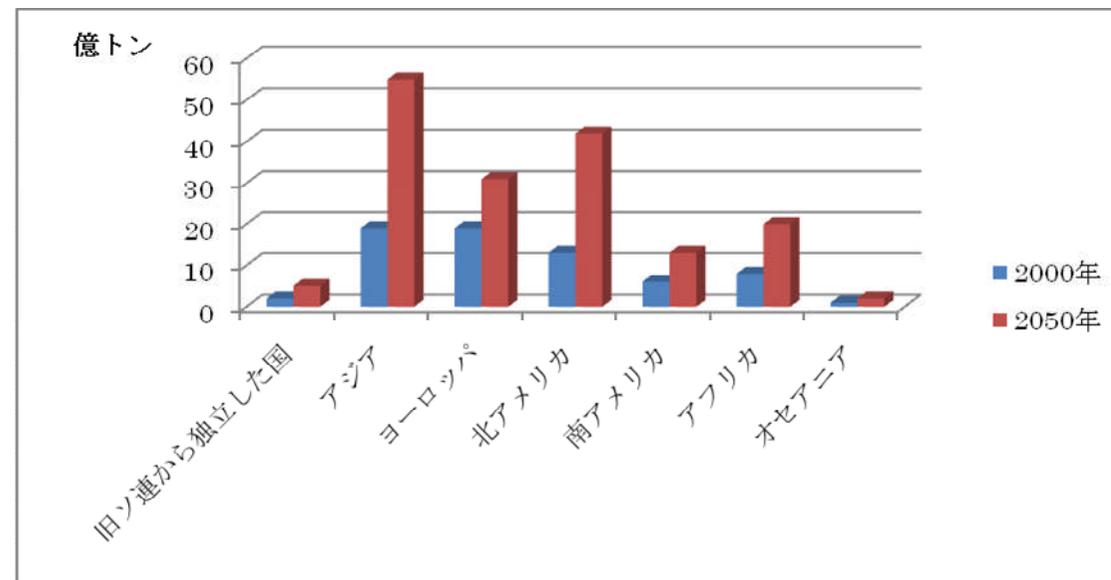
藤田千枝編/新美景子著 『環境の世界地図』 より

年 組 番 氏名

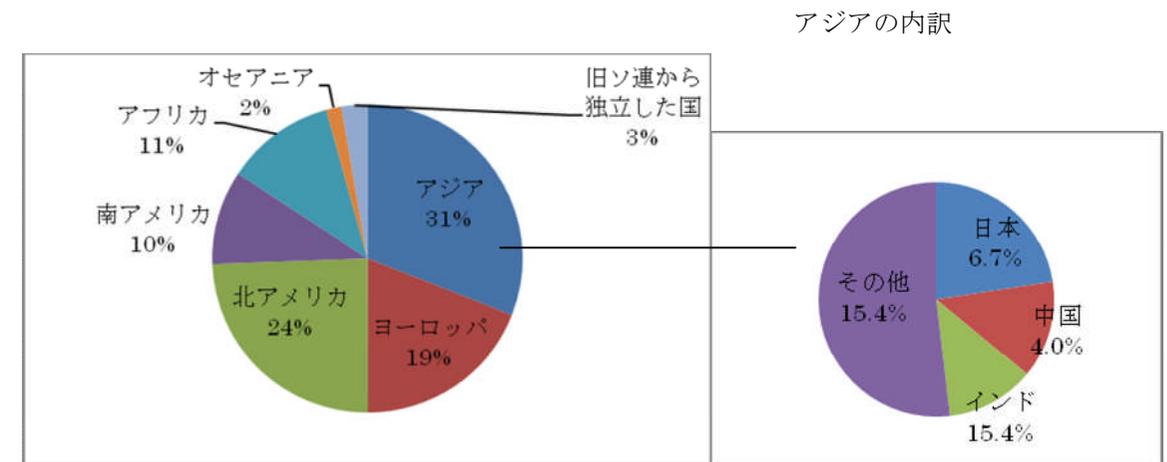
資料② 2000年のごみの量の割合・・・年間106億トン



資料① 1年間のごみの量 (2000年~2050年)



資料③ 2050年のごみの量の割合・・・年間188億トン



共同者名

★調べた国名

(E) グループ オーストラリア

* ホームページ

<http://discover.australia.or.jp/chapter03/005.html>
<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/world/australia.html>

1 環境に関するラベル

ラベル



説明

オーストラリアは、環境ラベルに関する国際ネットワークである GEN (Global Ecolabelling Network) に加盟している。ISO のタイプ I 環境ラベル (第三者認証) に分類される制度である。

2001 年 11 月に NPO であるオーストラリア環境ラベリング協会のプログラムとして運用している。認定商品数は 250 以上。

原材料の採取、又は天然資源の産出から最終処分に至るプロセスにおける環境負荷を考慮して判断基準を策定している。

年 組 番 氏名

2 ゴミ問題への取組

1 クリーンアップ・オーストラリア・デー

シドニー出身のヨット乗りが、自分の住んでいるシドニー港をきれいにしようと始めたゴミ拾いの運動。世界中の海をヨットで旅して、多くの国の美しい海岸がゴミで汚されているのを目にして心を痛め、シドニーに戻り、まずはシドニーからきれいにしようと考えた。このヨット乗りの呼びかけにこたえて、1989 年に「ゴミを拾う日」という運動が始まった。その年から 4 万人が参加する大規模なボランティア活動となった。翌年からはオーストラリア全土に広がり「クリーンアップ・オーストラリア・デー」となった。



クリーンアップ・オーストラリア・デーに参加する子供 / © Cleanup Australia Day

2 リサイクル・プログラム

学校の活動で行われているもの。紙くずのリサイクルをしたり、家庭科の実習で出る野菜くずから堆肥を作ったりする他、アルミニウムの缶やプラスチック、ガラスのビンを集める特別なビン置き場を校内に設置して、リサイクルに励んでいる。



★ 私たちが驚いたことベスト3 ★

- 1 オーストラリアはアルミ缶のリサイクルが世界一盛んである。
- 2 レジャーに訪れる国立公園では農業や土地開発は行われず、自然環境が守られている。
- 3 ヨーロッパからの入植が開始されてから今までに、およそ 20 種の鳥や哺乳類動物が絶滅したと考えられている。

☆ 番外 ☆

私たちと同じ年代の子も環境のボランティア活動をしている。

- ・ナショナルトラスト
- ・ランド・ケアー（土壌保全）
- ・ストリーム・ウォッチ（水流調査）

☆ 調べてみて思ったこと、感じたことなど記入しよう。

オーストラリアは自然に恵まれ、過ごしやすい国であると思っていました。それには、国民の多様な自然環境を保護する必要があるという意識が高く、協力体制が整っていることがよく分かりました。多数の環境保護プログラムを通して積極的に環境を保護する姿勢を養おうとする努力がみられました。ゴミ拾い活動やゴミの分別やリサイクルをはじめ、植林や水質保全のための調査研究がしっかりと行われていました。

私たちも日本の未来のために、毎日できるエコ活動を進んでやっていきたいです。

環境の4Rについて調べよう

- ★環境の4Rとは・・・(リサイクル recycle)
(リデュース reduce)
(リユース reuse)
(リフューズ refuse)

「もったいない」を世界へ

★Mottainai Home

④ 発表の準備

【別添資料4-②】

発表内容	時間	発表者	その他(工夫点)

「共同製作絵本」 () 班評価表

1年組 番氏名

絵本の趣旨（対象年齢、絵本から伝えたいこと）

--

製作の計画・話し合い	理由 ①大変よかった ②よかった ③あまりよくなかった ④よくなかった
実施状況（協力できたか）	理由 ①大変よかった ②よかった ③あまりよくなかった ④よくなかった
創意工夫	理由 ①大変よかった ②よかった ③あまりよくなかった ④よくなかった
内容（乳幼児にふさわしいか）	理由 ①大変よかった ②よかった ③あまりよくなかった ④よくなかった
発表	理由 ①大変よかった ②よかった ③あまりよくなかった ④よくなかった

絵本作り、発表を通して、学んだこと、楽しかったこと、苦労したことなど記入しましょう。

--

クラス発表を終えて気付いたこと

--